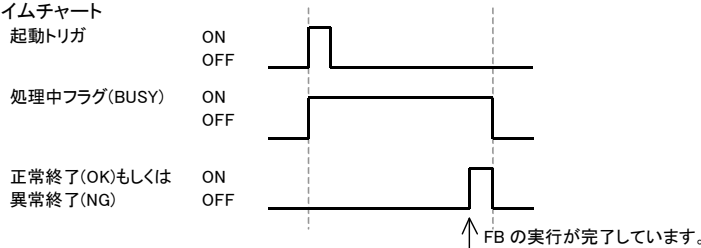
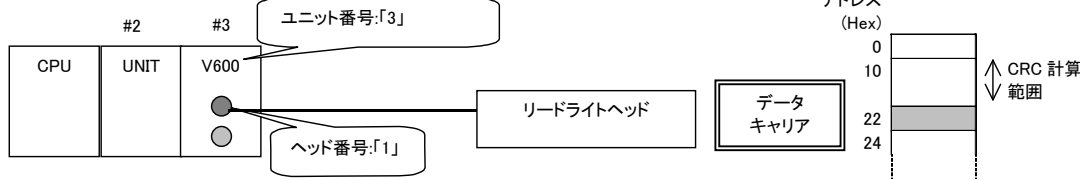
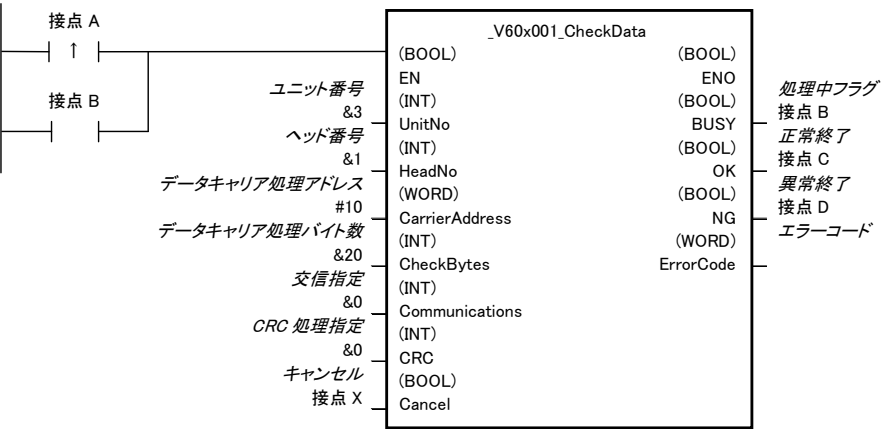


V60x001 データキャリアのデータチェック _V60x001_CheckData

機能概要	データキャリアのデータの CRC を求め、書き込みます。																																										
シンボル	<p>起動トリガ</p> <p>処理中フラグ</p> <p>ユニット番号</p> <p>ヘッド番号</p> <p>データキャリア処理アドレス</p> <p>データキャリア処理バイト数</p> <p>通信指定</p> <p>CRC 処理指定</p> <p>キャンセル</p>	<table border="1"> <tr> <td colspan="2" style="text-align: center;">_V60x001_CheckData</td> </tr> <tr> <td>(BOOL)</td> <td>EN</td> </tr> <tr> <td>(INT)</td> <td>UnitNo</td> </tr> <tr> <td>(INT)</td> <td>HeadNo</td> </tr> <tr> <td>(WORD)</td> <td>CarrierAddress</td> </tr> <tr> <td>(INT)</td> <td>CheckBytes</td> </tr> <tr> <td>(INT)</td> <td>Communications</td> </tr> <tr> <td>(INT)</td> <td>CRC</td> </tr> <tr> <td>(BOOL)</td> <td>Cancel</td> </tr> <tr> <td>(BOOL)</td> <td>ENO</td> </tr> <tr> <td>(BOOL)</td> <td>BUSY</td> </tr> <tr> <td>(BOOL)</td> <td>OK</td> </tr> <tr> <td>(WORD)</td> <td>NG</td> </tr> <tr> <td>(WORD)</td> <td>ErrorCode</td> </tr> </table>	_V60x001_CheckData		(BOOL)	EN	(INT)	UnitNo	(INT)	HeadNo	(WORD)	CarrierAddress	(INT)	CheckBytes	(INT)	Communications	(INT)	CRC	(BOOL)	Cancel	(BOOL)	ENO	(BOOL)	BUSY	(BOOL)	OK	(WORD)	NG	(WORD)	ErrorCode	<p>処理中フラグ</p> <p>正常終了</p> <p>異常終了 エラーコード (省略可)</p>												
_V60x001_CheckData																																											
(BOOL)	EN																																										
(INT)	UnitNo																																										
(INT)	HeadNo																																										
(WORD)	CarrierAddress																																										
(INT)	CheckBytes																																										
(INT)	Communications																																										
(INT)	CRC																																										
(BOOL)	Cancel																																										
(BOOL)	ENO																																										
(BOOL)	BUSY																																										
(BOOL)	OK																																										
(WORD)	NG																																										
(WORD)	ErrorCode																																										
ファイル名	Lib\FBL\omronlib\RFID\V600_V60x001_CheckData10.cxf																																										
対象形式	ID センサユニット	形CS1W-V600C11/V600C12, CJ1W-V600C11/V600C12																																									
	CPU ユニット	CS1*-CPU**H ユニットバージョン 3.0 以上 CJ1*-CPU**H ユニットバージョン 3.0 以上 CJ1M-CPU** ユニットバージョン 3.0 以上 CP1H																																									
	CX-Programmer	バージョン 5.0 以上																																									
使用言語	ラダー言語																																										
使用条件	<p>■CX-Programmer の設定</p> <p>ID センサユニット関連 FB は、ファンクションブロックのアドレス割付にて保持以外のエリアが H512 以降(初期値設定)では動作しません。必ず CX-Programmer にて本値を、使用していないエリア(例えば DM や EM)に変更してください。本値はメニューバーから[PC]-[ファンクションブロックメモリ]-[ファンクションブロックアドレス割付]から変更ができます。</p> <div data-bbox="379 1160 1104 1637" style="border: 1px solid gray; padding: 5px;"> <p>ファンクションブロックアドレス割付 [新規PC1]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>FBインスタンスエリア</th> <th>先頭アドレス</th> <th>最終アドレス</th> <th>サイズ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>保持以外</td> <td>H512</td> <td>H1407</td> <td>896</td> </tr> <tr> <td>保持</td> <td>H1408</td> <td>H1535</td> <td>128</td> </tr> <tr> <td>タイマ</td> <td>T3072</td> <td>T4095</td> <td>1024</td> </tr> <tr> <td>カウンタ</td> <td>C3072</td> <td>C4095</td> <td>1024</td> </tr> </tbody> </table> <p>使用していないエリアを指定してください。 必要なサイズは、使用する FB の種類や数によって異なります。 既にラダープログラム上で使用しているエリアを指定した場合や容量が足りない場合は、CX-Programmer がコンパイル時にエラーを表示します。</p> <p>ファンクションブロックアドレス割付 [新規PC1]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>FBインスタンスエリア</th> <th>先頭アドレス</th> <th>最終アドレス</th> <th>サイズ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>保持以外</td> <td>D32020</td> <td>D32767</td> <td>748</td> </tr> <tr> <td>保持</td> <td>H1408</td> <td>H1535</td> <td>128</td> </tr> <tr> <td>タイマ</td> <td>T3072</td> <td>T4095</td> <td>1024</td> </tr> <tr> <td>カウンタ</td> <td>C3072</td> <td>C4095</td> <td>1024</td> </tr> </tbody> </table> <p>例えば、 D32020 から D32767 の 748CH 分を使用する場合は 左記のように指定します。</p> </div> <p>■ID センサユニットの状態</p> <p>ID センサユニットがビジー中の場合は NG フラグを ON し、本 FB の機能を実行しません。</p>			FBインスタンスエリア	先頭アドレス	最終アドレス	サイズ	保持以外	H512	H1407	896	保持	H1408	H1535	128	タイマ	T3072	T4095	1024	カウンタ	C3072	C4095	1024	FBインスタンスエリア	先頭アドレス	最終アドレス	サイズ	保持以外	D32020	D32767	748	保持	H1408	H1535	128	タイマ	T3072	T4095	1024	カウンタ	C3072	C4095	1024
FBインスタンスエリア	先頭アドレス	最終アドレス	サイズ																																								
保持以外	H512	H1407	896																																								
保持	H1408	H1535	128																																								
タイマ	T3072	T4095	1024																																								
カウンタ	C3072	C4095	1024																																								
FBインスタンスエリア	先頭アドレス	最終アドレス	サイズ																																								
保持以外	D32020	D32767	748																																								
保持	H1408	H1535	128																																								
タイマ	T3072	T4095	1024																																								
カウンタ	C3072	C4095	1024																																								
機能説明	<p>「ユニット番号」・「ヘッド番号」で指定したデータキャリアに対して指定アドレスから(指定バイト数-2)分のデータのCRCを求め、書き込みます。</p> <p>1 回のチェック可能なデータ量は3~2048 バイトです。</p> <p>IDセンサユニットの注意点として以下があります。詳細は「関連マニュアル」を参照してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チェックエリアの最後の 2 バイトはチェックコードエリアとして使用しますので、空白(ユーザデータを書き込まない)にしておいてください。 ・ライト時ペリファイなし設定の場合には、ペリファイ処理を行いません。 																																										
FB 定義の種類	<p>複数サイクル実行型</p> <p>本 FB は起動後、複数サイクルにまたがって処理を行います。</p> <p>内部で状態を保持するため、同じインスタンスを複数箇所ですべて同時に使用することはできません。</p>																																										

<p>FB 使用上の注意 注意点</p>	<ul style="list-style-type: none"> 本 FB は数サイクルにまたがって処理を行います。出力変数 BUSY によって、処理が実行中か否かを確認できます。 処理を終えると、OK または NG が 1 サイクルだけ ON します。これらのフラグを参照して、FB の処理完了を検知してください。 <p>■タイムチャート</p> 
<p>EN の入力条件</p>	<p>上図のように「起動トリガ」の立ち上がりと FB の出力である BUSY の論理和を EN に接続させます。</p>
<p>制限事項 入力変数</p>	<ul style="list-style-type: none"> EN への入力には必ず立ち上がり微分(↑)を使用してください。 入力変数の値が範囲外の場合、ENO を OFF し、FB の内容は実行しません。 1 ヘッドタイプ(CS1W-V600C11, CJ1W-V600C11)はヘッド番号を必ず&1 としてください。 処理アドレスおよび処理バイト数はデータキャリアのメモリ容量を確認して指定してください。処理アドレスおよび処理バイト数が送信するデータキャリアのメモリ容量と合わない場合には、アドレスエラーを出力します。
<p>出力変数</p>	<ul style="list-style-type: none"> 本処理は、複数サイクルに渡って実行する必要があるため、処理完了まで実行されるように、出力変数 BUSY を、入力変数 EN への入力条件の OR 回路に、必ず挿入してください(「シンボル」の項参照)。 出力変数 BUSY を FB 外で ON/OFF しないでください。
<p>使用例</p>	<p>接点 A を ON すると、ユニット番号 3 の ID センサユニットのヘッド 1 に繋がったデータキャリアのアドレス 10(Hex)から 18 バイト(12Hex)分のデータの CRC を求め、アドレス 22(Hex)に結果を書き込みます。</p>  
<p>関連マニュアル</p>	<p>「ID センサユニット ユーザーズマニュアル」(SCLB-707) 4-3. 入出力データの割付「異常コード一覧」 6-2. 送信コマンド「((8)データチェック)」</p>

■変数テーブル

【INPUT】(入力変数)

名称(和文)	変数名	データ型	初期値	有効範囲	説明
EN	EN	BOOL		-	1(ON): FB を起動する 0(OFF): FB を起動しない
ユニット番号	UnitNo	INT	&0	&0~&95	
ヘッド番号	HeadNo	INT	&1	&1~&2	&1: ヘッド 1 &2: ヘッド 2(2 ヘッドタイプのみ)
データキャリア 処理アドレス	CarrierAddress	WORD	#0	-	データキャリアのアドレスを指定します。
データキャリア 処理バイト数	CheckBytes	INT	&0	&3~&2048	データキャリアの容量を考慮して決定してください。
交信指定	Communications	INT	&0	&0~&1	&0: トリガ &1: オート
CRC 処理指定	CRC	INT	&0	&0~&1	処理内容を指定します。 &0: CRC 計算 &1: CRC 照合
キャンセル	Cancel	BOOL	0(OFF)	-	0→1: 実行を打ち切ります。

【OUTPUT】(出力変数)

名称(和文)	変数名	データ型	有効範囲	説明
ENO (省略可)	ENO	BOOL		1(ON): FB が正常に動作した 0(OFF): FB は起動していない/FB が異常終了した
処理中フラグ	BUSY	BOOL		処理完了後、自動的に OFF します
正常終了	OK	BOOL		正常終了時 1 サイクルだけ ON します
異常終了	NG	BOOL		異常終了時 1 サイクルだけ ON します
エラーコード (省略可)	ErrorCode	WORD		ID センサの結果情報を出力します。 詳細は「関連マニュアル」に記載されたマニュアルを参照してください。 #0070: データキャリア通信異常 #0071: ベリファイ異常 #0072: データキャリア不在異常 #0076: 状態フラグ #007A: データキャリアアドレス異常 #007B: 電池寿命ワーニング #007C: ヘッド異常 #007D: プロテクト異常 #FFFE: ビジー中 #FFFF: 入力パラメータの異常

■バージョンアップ履歴

バージョン	日付	内容
1.00	2004.6.	新規作成
1.04	2010.8.	エラーコードに「ビジー中(#FFFE)」を追加